

田んぼと油田

留学生がみた豊川地区





石川理紀之助翁遺跡にて。奥には理紀之助が実際に生活した住居が保存されている。住居は簡素ながら目的別にきちんと分けられ、日々を丁寧に暮らしていた様子を垣間見ることができる

県庁所在地である秋田市から車で30分ほど。細くなっていく道を、広がる田んぼに押し出されるように進んでいくと、いつしか道は上り坂になり、気づけば櫓がぼつんとたたずむ丘の上に。

秋田市に隣接しベッドタウンとして栄える湯上市の中で、三方を山と森に囲まれ「行き止まり集落」と呼ばれる豊川地区。そんな豊川地区を留学生と一緒に訪ねてみました。

かつては天然アスファルト、油田で栄え、多くの人々を集めたまち。農聖・石川理紀之助が活躍し、遥か九州までその名が知られたまち。今は人々が去り、急激な過疎化に直面しているまち。日本のすべてのまちと同じようにここにしかない歴史と物語を抱えながら、日本の多くのまちと同じように人が減ってゆき、それを伝えていくことも困難な豊川地区。

そんな豊川地区は留学生の目にどのように映るのでしょうか。

これは、秋田大学に所属する9地域33名の留学生が、豊川地区を見て、そしてそこに住む人たちにインタビューをして、考えたことをまとめた本です。留学生が過疎のまちで見つけた驚き、喜び、楽しみ、悲しみ、寂しさ、暖かさ、力強さ。

少し足を止めて豊川地区を、そして、みなさんの周りにあるすべてのまちの物語を留学生と一緒に眺めてみませんか？



明治から大正にかけ農村経済確立のためこの地で奮闘した石川理紀之助。資料館裏には彼の住まいや火災から蔵書を守るためトタンで作られた書庫が当時のまま保存されている。収穫も終わり秋深まる豊川。書物を片手に理紀之助はどのような思いでこの景色を眺めたのだろうか



雪の豊川を見下ろすように丘の上に行む
 櫓。全盛期の大正時代には718本の油
 井（ゆせい）が林立し、のちの昭和天皇
 も訪問された豊川油田。すでに豊川の人
 でさえ知ることの少ない華やかな時代。
 田んぼの中にぼつんと現れる錆びた櫓
 は当時の記憶を静かに訴えている



明治35年に開業したJR奥羽本線大久
 保駅から歩く。「(奥) 大久保」と書かれ
 た切符を「きっぷ入箱」に入れ、町中を
 進み、秋田自動車道を越えると豊川地区
 に入る。かつては豊川油田から石油を運
 ぶトロッコがこの駅前まで延びていた

田んぼと油田の町、豊川へようこそ！

イラスト＝平田早季

潟上市は、県庁所在地がある秋田市の北西に位置する人口約34500人の町。潟上市は1970年代からベッドタウン化が進み、県内市町村で現代まで最も人口増加を続けていた区域です。その中でも豊川地区は、旧石器時代から天然のアスファルトが確認できていたとされ、かつては「我が県第一号の特産品

となるであろう」と期待を寄せられていました。石油採掘は昭和の初めにピークを迎えますが、2001年に原油生産が完全に停止。ひとつの時代に終わりを告げることになりました。その後、地元保存会の活動も衰り、2007年11月30日には経済産業省から石油産業に関わる「近代化産業遺産」

の認定を、2009年5月10日「地質の日」には日本の地質百選にも認定されました。こうした輝かしい歴史を持つ豊川地区ですが、現在の状況は必ずしもかんばしいものとは言えません。いわゆる「行き止まり集落」であることは、周辺市町村との合併(27頁参照)の際に進んだ大久保地区への交通アク

セス改善とともに、地域住民の他出、進学・就職による転出が相次ぎ、2012年には住民の憩いの場でもあった潟上市立豊川小学校が135年の歴史にピリオドを打ちました。その跡地には潟上市多目的交流施設、いわゆる「豊川地区コミュニティセンター」がお目見え。現在は、豊川が生んだ農

聖「石川理紀之助の功績を伝える」潟上市郷土文化保存伝習館」や、かつての繁栄を伝える「豊川油田跡」とともに、地域のシンボルとして地域住民たちの活動拠点になっています。深刻な人口減少問題に直面する秋田の地で、新たな時代を歩み始めたばかりの豊川地区に、みなさんもぜひ足を運んでみてください。

くさきだに 草木谷

里山にある石川理紀之助翁ゆかりの農地。主に環境学習のために用いられている。非営利団体「草木谷を守る会」(代表:石川紀行)が、田植え・稲刈り体験などの環境学習、ホテル鑑賞会、その他各種イベントを不定期に開催している

「草木谷を守る会」
連絡先:kusakidani.mamorukai@gmail.com
住所:秋田県潟上市昭和豊川山田字家の上62
ホームページ:http://kusakidani.net/
Facebook:
https://www.facebook.com/kusakidani

かたがみ 潟上市多目的交流施設 (豊川コミュニティセンター)

豊川小学校跡地に建てられた多目的施設。地域コミュニティの新たな活動の拠点

電話:018-877-4738
住所:秋田県潟上市昭和豊川船橋字鈴木8-1
開館時間:9:00~21:30
*施設の使用申し込みは、使用の3日前までに上記の連絡先へ

潟上市郷土文化保存伝習館

石川理紀之助翁遺跡に併設された資料館。貴重な資料や遺稿が保存・展示されている

電話:018-877-6919
住所:秋田県潟上市昭和豊川山田字家の上64
営業時間:
4月~10月 9:00~16:30
11月~3月 9:00~16:00
休館日:月曜日、祝祭日の翌日、年末年始(12/28~1/3)

JR奥羽本線 大久保駅

潟上市役所 昭和庁舎

ブルーメッセあきた

潟上市特産品を揃えた道の駅に、世界の花が鑑賞できる温室、レストランを併設

電話:018-855-5041
住所:秋田県潟上市昭和豊川竜毛字山ノ下1-1
営業時間:9:00~18:00
(レストラン 花の大地は11:00~18:00)
休館日:年末年始(12/31、1/1)
URL:http://www.blume-messe.com/index.html

豊川油田跡

山中に橋など当時の施設の一部が残る。油田展示室では歴史を伝える資料を展示

電話:018-877-2069
住所:秋田県潟上市昭和豊川槻木真形尻56-2
*豊川油田展示室の見学を希望される方は「豊川油田の歴史を伝える会」(上記番号)までお問い合わせください



留学生が聞いた、 豊川の人々の物語

地域の人々をつなぐ拠点である、
豊川コミュニティセンター。
ここにはかつて、美しい木造校舎の
豊川小学校がありました。
今回、様々な地域から集まった
33名の留学生とともに、
豊川小の元教師、元生徒である
6組8名のみなさんに
インタビューを行いました。
様々な思いが交差する場で
留学生が聞いた物語の数々を、
どうぞご覧ください。



秋田自動車道手前、豊川地区の入り口に広がる田んぼ。留学生が初めて豊川を訪れた10月上旬は稲穂が実る黄金の風景、最後に成果発表会を行った1月下旬には、真っ白な雪にこぼれた染みひとつない銀世界。豊川の様々な顔を留学生に見せてくれた

豊川の元小学校教諭 富士盛泰子さんを訪ねて

聞き手 〓 ヤエル(イスラエル)、オユン(モンゴル)、デリア(ルーマニア)、
李エンセイ(中国)、王徽(中国)、王徽(中国)、蘭夢婷(中国)



かつてここにあった小学校の姿と思い出を丁寧に説明して下さった富士盛さん。今座っているここに先生だった富士盛さんがいて、子どもたちがいて、にぎやかな声があふれていたこと。通訳を介しながらも熱い思いは伝わるのか、みんな体を乗り出して話を聞いていました



休み時間もみんなで一緒に
学校全体が一つの家族

「富士盛さんが教えていた頃、小学校はどんな様子でしたか？」

富士盛 今日(4年ぶり)に豊川へ来ました。ここ(豊川コミュニティセンター)は私が7年間務めた豊川小学校の跡地なんです。木造のノスタルジックな校舎で、すぐ裏には田んぼがあり、子どもたちが田植えや稲刈りをしていました。そういう場所がなくなってしまう、個人的にはちょっとさみしい気分です。私が豊川小に赴任したのは2004年ですが、当時から子どもが少なくて、全校で1000人以下でした。それがさらに70人、60人と減っていき、次第に1学年で一つのクラスを編制することも難しくなり……最後は「複式学級」といって、例えば2年生と3年生で一つのクラスを組むような状況になっていきました。でも、子どもたちは一人一人とても元気で明るくてパワーがありました。子どもが少ないから、1年生から6年生まで、みんな友達。学校が一つの大き

な家族みたいな感じで、休み時間もみんなで遊んでましたね。しかも、教え子の中には私の同級生の子もいたりしたんです。教師と保護者が昔からの友達同士という、割と珍しい事態も起きていました。

「豊川が一番いいところはどこですか？」

富士盛 人が温かいとこかな。田植えや運動会、学習発表会など、小学校でいろんな行事をやるんだけど、家族の人や地域の人が協力してくれて、みんな楽しんでました。人情があるんですよね。人情、わかるかな？

「ニンジュ？」

富士盛 ニンジョー(笑)。人々が優しいってこと。

「確かにみんな親切です。でも、いつも謝っています。「ゴメンネ、ゴメンネ」って、これは日本の文化習慣ですね(笑)。」

富士盛 あと、豊川の良さで言うと、一つの家族の中におじいちゃんとおばあちゃん、お父さんとお母さん、そして子ども。日本の言葉で言ったら3世代の家族が同居しているという点がありますね。中には大きいおじい

ちゃんとおばあちゃんがいて、4世代の家族というのもある。都市部だと、核家族が多いんだけど、それとの違いは絶対にあるって、いろんな世代の大人たちと暮らしていると、お年寄りを大切にしようっていう気持ちや芽生え、心が豊かで優しい感じになる。豊川の子どもたちはみんなそうでした。地域や世代をつなぐ場所という意味で、豊川小学校はとても重要な役割を果たしていたんじゃないかな。自分が卒業した学校がある、自分の子どもが通った学校があるっていうことで、集いの場という「学校のために何かしたい」という気持ちも芽生えるだろうし、人々の心の支えになっていたのかなと。

進む高齢化に人口減少…
乗り切る秘訣は「健康第一」

「豊川の将来についてはどう思いますか？」

「ありがとうございます！」

おじいちゃんおばあちゃんと暮らしているから、
豊川の子どもたちはみんな心が優しい
——富士盛さん

豊川で3人の子を育てる 小玉一幸さんに聞いてみた

聞き手 〓 エリカ(鄭筱蓉)台湾、高雪婷(中国)、劉曉曉(中国)、
李丹陽(中国)、ロベルト(ポーランド)



身近に自然があるのがいいところ。昔も今も、 豊川はそんなに変わっていないと思います

——小玉さん

地元が好きなので、
最初から戻るつもりだった

——大学卒業後、豊川に戻ってきたのはなぜですか？

小玉 僕は地元が好きで、家業の農業を継ごうとも思っていたので、最初からここに戻ってくるつもりでした。地元の友達には上京した人も結構いたけど、そういう考えはなかったですね。——小玉さんは青森大学に行っていたと聞きましたが、豊川から出たのは何か理由が？

小玉 いや、選べる大学がそこしかなかったからです(笑)。青森大学ではコンピューターのプログラミングを勉強していました。今は社会福祉協議会というところで地域の福祉に関わる仕事をしていて、全然プログラミングとは関係ないんですけど。

——家の農業はどうしていますか。
小玉 主に父がやっています。僕も休みの日は手伝っていて、田植えや収穫の時期は会社を休んで田んぼに入ることも多いです。大潟村とかにはうちより何倍も広くやっている農家があって、そういう家は人を頼んでや

っているわけですが、うちは土地も広くないので、家族経営ですね。今後は人口が減るので、農業でなくなる家も増えるでしょうね。しかも、お米の値段も下がってきているので、大規模にやっているところじゃないと生き残るのは厳しい。——TPPが始まったらさらに値段が下がる恐れもありますね。
小玉 そうなったら、また辞める農家も増えるでしょうね。高齢化に伴う後継者不足の問題もあり、状況は厳しいです。

虫捕りに木登り、秋の紅葉
身近な自然が豊川の財産

——小玉さんは豊川で3人のお子さんを育てています。ここには小学校がありませんが、みんなどうしていますか？

小玉 一番上の子が7歳なんですけど、ここからスクールバスに乗って、大久保の大豊小学校に通っています。僕が小さい頃は家から20分歩いて豊川小学校に通っていたけど、スクールバスの方がむしろ楽だろうし、親としても安心ですね。——子どもたちの将来について

は、豊川にいて欲しいですか。

小玉 残りなかったら残れば良いとは思っています。でも、農業以外に産業がないので、仕事のことを考えると、やはり外に出ざるを得ないんじゃないかな。

——昔と今の豊川は、どんなところが変わりましたか？

小玉 そんなに変わったという意識はないですね。子どもの頃は近くで虫やカエルを捕ったり、木登りをして遊んでいたけど、そういう体験って今でも普通にできますからね。自然が身近にあるのはいいことだと思います。妻がカエル嫌いなんで、たまに子どもと捕って帰ると、気持ち悪いって怒られます(笑)。

——生活に不便はありませんか。
小玉 最近ではスーパーやコンビニもあるんで、車があればそんなに困らないです。ただ、歩いて行ける距離にお店がないので、家で飲んだときにお酒が切れちゃうと、途中で買い足しに行

けないのがちょっと不便かな。

——小玉さんは今後、この地域の発展に何か希望はありますか。

小玉 自然に囲まれている地域なので、グリーンツーリズムとかはいいなと思っています。あとは、都会から人を呼んで農業体験をしてもらうのもおもしろそう。この先、人口が増えることはないと思うので、観光で豊川に来る人を増やしていけたらいいのかなと。

——外から友達が来たとき、豊川の何を見せますか？

小玉 ホテルかな。夏はホテル出るので、それを見に来る人は結構いますよ。あとは、秋になると紅葉もキレイですね。ただ、散策するようところがそんなにないので、そういう場所を整備するのもいいのかもしれない。

——山登りとかいいですね。
小玉 でもね、夏はヒルに血を吸われるから、あまり人は行きたくないかも(笑)。



聞きたいことをしっかりまとめてインタビューに挑んだ本グループ。しかし、ぼつり、ぼつりと話す小玉さんの答えは、彼らが予想していたものとは異なっていたようです。秋の柔らかな陽を浴びながら、インタビューは静かに盛り上がりました

豊川育ちの女子高生 大澤美帆さんと 佐々木美咲さんを訪ねて

聞き手＝**フヤンヒシゲ**(モンゴル)、**リタ**(謝定惠)(台湾)、**周芸明**(中国)、**ビリゲ**(モンゴル)、**金アヨン**(韓国)、**辛姜琦**(中国)



大澤美帆さん



佐々木美咲さん



学校行事は大人も参加
全員が「大きな知り合い」

佐々木さんと大澤さんは16歳の高校1年生ですが、二人にとって豊川はどんな場所ですか？

大澤 人々が親切で、あいさつをしたらみんな返してくれるところですかね。

佐々木 他の地域より人の数が圧倒的に少ないから、みんなが「大きな知り合い」みたいな感じなんです。どこの子か、親の名前を言えばすぐに通じるくらい家族的でした。

大澤 私たちは保育園から中学校まで一緒だったんですが、豊川小学校でも全員が顔見知り、学年問わず仲が良かった。「かっち山グループ」とかあったよね。

その当時はイモの世話とかちょっと面倒くさいなって思ってたけど、やっぱり収穫して焼き芋にするとおいしくて、やりがいを感じました。

佐々木 隣の保育園とも交流があったよね。あとは先生ともすごく仲良しで、普通に友達みたいに話してたから、高校に入ったら何か教師と距離があって、逆にびっくりしちゃった。

大澤 運動会や学習発表会、収穫感謝祭など、学校の行事があると地域の人もみんな来るんですよ。大人たちも一緒に走ったり、ムカデ競争したり。冬の雪合戦なんかまさに戦争で(笑)。こういう人のつながりが豊川のいいところだと思います。

花の女子高生&女子大生、恋バナで大盛り上がり！

カチャマグループ？

佐々木 懐かしいね。1〜6年生までの全学年が入るよう、縦割りに分けた8組のグループがあって、そのメンバーで芋掘りとか鍋っことやるんですよ。

大澤 私は「塩顔」の人が好きです。わかるかな？ さらっとした顔が好きなんです。芸能人と言うと玉木宏さんみたいな。

大澤 グループでサツマイモを育てて、上級生が水やりを、下級生が草取りを担当してたよね。

佐々木 大丈夫(笑)。

大澤 いろんな男子がタイプ？

佐々木 唯一の男子ビリゲさんがガールズトークに全然ついて来れてない(笑)。

彫りが深い人はちょっと苦手。って、自分で言ってるで恥ずかしくなってきた(笑)。

佐々木 私はすごく性格重視ですね。みんなをまとめたり引張ったり、リーダーシップのある男らしい人が好きです。

佐々木 唯一の男子ビリゲさんがガールズトークに全然ついて来れてない(笑)。

大澤 恋バナが長くなっちゃいましたね。最後に、豊川を外の人にオススメしたら？

佐々木 やっぱ人が仲良しってところが豊川の特徴ですかね。

佐々木 あ、でもちょっとは気にするかも(笑)。みなさんは彼氏とかいないんですか？

大澤 何もないけどね(笑)。

佐々木 ないんだけどね。まあ、毎日忙しいと、嫌だなんて思うこともたくさんあるんですけど、この辺の緑を見ると、どうでもよくなったりします。散歩とかしてても、ほとんど人に会うことがないんですよ。だから、気分を変えたいとき、リフレッシュしたいときは、豊川をゆっくり散歩してみたい。

大澤 わかる！ カッコいいですよね。

大澤 野生の狸やカモシカが見られたりするよね。

大澤 私は3か月くらい前に別

二人は彼氏いますか？

佐々木 うん、います。つき合ってます。

大澤 私は3か月くらい前に別

大澤 私は3か月くらい前に別

大澤 私は3か月くらい前に別



メンバーがほぼすべて女子！ インタビュー相手も女子高生！ どのグループよりも盛り上がっていた話し合いの半分は恋バナでした。はじける笑顔と笑い声。ただ唯一の男性メンバー、モンゴルからのビリゲ君がおいていかれてしまったのが気がかりです(笑)



私の好みは「塩顔」男子です(笑) — 大澤さん
私は引っ張ってくれる人が好きかな — 佐々木さん



婦人部がやってきた ヤア！ヤア！ヤア！

文 平田未季

漂うがっこや寒天の香り 偶然が生んだ奇跡のコラボ

留学生がコミュニティセンターのホールで地域住民へのインタビューを続けていると、そと扉が開き、いくつかの顔がのぞきました。
「どこの国の人？」
「何してんの？」

聞けば、今日、センターの別室に豊川は船橋地区のお母さんたちが集まっているとのこと。早速様子を見に行ってみると、廊下の先の部屋からにぎやかなおしゃべりとともに何だか懐かしい香りが漂ってきました。

お母さんたちの集まりは地域料理の講習会だったのです。みなさんの手元には、目にも鮮やかな色とりどりのがっこ(漬物)と秋田名物の寒天(秋田県では伝統的に果物や野菜などを寒天にして食べる文化があります)。これは是非留学生にも見せたい！早速撮影隊が交渉開始です。

撮影隊「今、留学生が地域の方との交

流会しているんですけど、よかったら一緒に参加しませんか？」

婦人A「そんないきなり言われでもなし、大したことしゃべれねど？」(笑)

撮影隊「イケメン留学生もいますよ」

婦人B「おお行くが？」(笑)

婦人C「再婚のチャンスだな！」

婦人D「んだ、料理こ持っていけばいいね！」

撮影隊「えっ、いいんですか!?(淡い期待)」

婦人B「いのよ、いつべ作っただがらかへれば(食べさせれば)いのや！」

婦人E「もってけもってけ！」

お礼を言う間もなく、みなさん素晴らしい手際の良さで、タッパやお皿を取り出し、何人いるのと聞きながらがっこ、寒天、お菓子を分けつけていきます。

現代表の奈良真利子さんによれば、船橋自治会婦人部では、地域の料理を伝えてゆくため、そしてそれ以上に、冬に家の中にもりがちになる高齢の方々が外に出てみんなと集まり話をす

好きな留学生は早くもハマったのか「もつとないですか?」とおねだり。

一転にぎやかになったホールに漂うがっこの香り。差し入れが潤滑油となり、どのグループも話はずみずみず。漬物と寒天のこと、豊川地区のこと、生活のこと、方言のこと、興味津々の留学生と婦人部のみなさんが英語、日本語、秋田弁を交えて語り合う光景は今までの豊川にはない、「新しい非日常」でした。

留学生1人1人に熱心に料理の作り方を説明してくださるみなさん。

「豊川はあたたかい！」

「やさしい人！」

うれしい出会いに感動する留学生一同でした。

インタビューの終了後、帰りのバスに揺られていると、奈良さんからメールが届きました。

「今、各国の生徒さんたちから聞いたレシピの発表会をしています。鳥の足をゆでて漬物をつけても美味しいとか……やってみるかなと会議中です」

なんと、料理の作り方を教わるだけでなく、自分の国の料理についても伝え、しっかりと豊川に爪跡を残していた留学生(笑)。そして早速それを取り入れようとしている婦人部のみなさん。好奇心と柔軟性にあふれたお母さんたちによって、豊川に「中華風がっこ」や「ルーマニア風寒天」が誕生する日が来るかもしれません……。

る場を設けるため、毎年12月上旬に料理講習会を開いているそうです。しかし、この新コミュニティセンターでの料理講習会は今日が初。しかも本来は前日に開催する予定だったのですが、荒天により急遽一日ずれこみ、ちょうどこのインタビューと同じ日に集まることになったとか。なんとという偶然！これは、ただ料理を渡すだけでなく、なんとしても婦人部のみなさんにも会場に来ていただきたい！

互いの文化を伝え合う 豊川の「新しい非日常」

恥ずかしそうに押し合いながらも、1人の方がホールへ足を踏み入れると、みなさんそれに続きぞろぞろと中へ。突然登場した婦人部のみなさんに驚く留学生。真剣なインタビュー中ではありましたが、思わずみんなの顔に笑みがこぼれます。

各グループのテーブルに差し入れを配り、それと一緒に婦人部のみなさんにもグループの輪に加わってもらいました。

留学生「この料理は何ですか？」

婦人「それはよ、ピアジェリー！」

留学生「made in beer? I wanna try」

三(ビールで!? 食べてみたい!)

そう、婦人部のみなさんがプレゼントしてくれたのは「ビールと栗の寒天」。やわらかな食感と栗の歯ごたえ、そして後から香るビールの風味。お酒



豊川小最後の在校生 川上竜馬さんと 沢畑芽吹さんに聞いてみた

聞き手 翟曉真(中国)、アセル(モンゴル)、アキル(マレーシア)、
金秋爽(中国)、馮明明(中国)



右から、
川上竜馬さん
沢畑芽吹さん



緊張気味?だった中学生のお2人に必死に質問を重ねる留学生の姿が印象的でした。豊川小時代から野球を続けている沢畑さんと川上さん。みんな野球の話をしようと頑張りましたが、実は留学生はほぼサッカー派でした(笑)



幼なじみの野球部コンビ
夏も冬も練習づけの日々

二人は小さい頃から友達なんです。

沢畑 保育園から一緒です。豊川小学校にも4年間いました。

川上 今は羽城中に通っていて、二人とも野球部に入っています。

沢畑 僕は竜馬くんを誘われて野球を始めました。

川上 お兄ちゃんも野球をやっている、おもしろそうだったから誘いました。

沢畑 ポジションはどこですか? レフトです。小学校のときはショートやピッチャーをやっていたけど、中学から外野になりました。

川上 僕は今ショートをやっています。小学校のときはキャッチャーをやっていて、僕はバッテリーを組んでいました。

沢畑 豊川小は生徒数が少なかつたけど、野球部があつたんだ。

沢畑 10人くらいいけば大会に出られるんですが、人数はギリギリくらいでした。

川上 僕たちの学年は7人しかいなかったの、他の学年もあ

「豊川は好きだけど、将来はここを出たいです」

豊川小は二人が4年生のときに廃校となり、5年生から新しい学校に移りました。当時はどんな感じでしたか?

沢畑 豊川小は人数が少ないからみんな仲良しでした。だから新しい学校は知らない人ばかりで最初は困りました。

川上 私たちと同じです。日本に来てから友達ができない。しかも日本語もできないし……とてもつらかったです。

沢畑 でも、積極的に話しかけて友達を増やしました。

川上 僕も学校が変わるのは嫌でした。最初は友達ができなくて不安だったけど、段々と友達が増えていってよかったです。

川上 二人は彼女いますか?

沢畑 デートとかしないの?

沢畑 まわりにはつき合ったり

わせてやっとなりませんでした。

沢畑 夏は夜の7時半くらいで、冬は6時からいまで部活があります。結構遅くまで練習するので、勉強する時間はあまりありません(笑)。

川上 ヒマなときは何してるの?

沢畑 友達と自転車でどこか行ったり、家でゆったりしたり。あとは家族でイオンに行きます。

川上 僕は釣りをしたり、家でゴロゴロしながらスマホのゲームをしたりしてます。

川上 好きなゲームをするの?

沢畑 豊川で好きなところは?

川上 よく行くわけじゃないけど、豊川って川があつて、夏はそこで遊ぶのが楽しいです。

川上 近くにブルームッセがあつて、そこが楽しいです。よく自転車遊びに行つてます。

川上 豊川小での一番の思い出は何ですか?

川上 仙台に行つた修学旅行が思い出に残っています。

沢畑 遊園地とか行つてすごく楽しくて、その思い出を卒業文集にも書きました。

川上 好きなコもないの?

沢畑 いません。

川上 クラスにかわいい女の子とかいるでしょ?

沢畑 ……少しはいます(笑)。

川上 将来はどうなりたい?

沢畑 プロ野球の選手にもなりたいけど、まだ何も決まっています。働くなら、いい会社に入つて高い給料をもらいたい。

沢畑 僕もしつかり働いてお金を稼ぎたいです。

川上 二人は豊川が好きですか?

沢畑 自然がいっぱいで好きです。もっと人が増えて欲しい。

川上 じゃあ、大人になつても豊川に残りたい?

沢畑 いや、他のところに住みたいですね。もっと都会のところ。

川上 うん。豊川は田舎って感じがするから、出たいです。

虫が多いけど、豊川は住みやすく好きです
新しい学校では、がんばって友達を増やしました

川上さん

沢畑さん

都会暮らしから豊川へ 瀬下育子さんに聞いてみた

聞き手 陳曼曼(中国)、辛芸秀(中国)、李丹(中国)、呉美慧(中国)



神奈川から秋田に戻った瀬下さん。都会とは異なる豊川の魅力とは何なのか。落ち着いた語りに耳を傾けているうちに、豊川の良さが徐々に分かってきた留学生たち。最も印象に残ったことは「ドジョウを食べること」だそうです



神奈川に進学、能代に就職
そして戻った豊川の暮らし

瀬下さんは一度豊川から出ていますが、こちらにUターンしてきた理由は何ですか？

瀬下 私は神奈川県にある大学に進み、そのときに一度ここを出ました。大学では森林科学という学問を勉強したのですが、神奈川に行ったのは、単にやりたい学問がその大学にしかなかったからです。あと、「いろんな地域の友達ができるから県外の大学に進学した方がいい」と親に言われたのも少しあります。

森林科学っておもしろそう
な学問ですね。珍しいです。
瀬下 昔から興味があったんですよ。木の種類を調べたり、微生物や昆虫のことを調べたり、木材の流通なんかにしても勉強したなあ。トイレもお風呂もない山で野宿して、寒かったし

つらかったけど、楽しかった。

都会への憧れもちょっとあったので、東京タワーとか、原宿とか、代官山とか、おしゃれなところにも行ったけど、都会の人の多さにちょっと疲れちゃってそれで就職活動のとき秋田の会社が集まる説明会があり、そこで知った会社に縁あって就職できたので、秋田に戻りました。

秋田が恋しかったですか。
瀬下 そうですね。神奈川は山も田んぼもなく、全部アスファルトで、見慣れた田舎の景色に戻りたいって気持ちが募っていたのは確かです。大学を卒業してすぐに就職したのは能代市の会社で、しばらくはそっちで一人暮らしをしていたんですよ。でも、その会社を辞めることになって、家賃のかららない実家にとりあえず帰ろうと思ったのが直接のきっかけです。
戻ってきて、豊川の暮らし

住み慣れた実家だし、ご飯も洗濯も やってくれるので、甘い生活をしてます(笑)

瀬下さん

はいががですか？

瀬下 ずいぶん人が少なくなったなという印象です。雪かきしてるのも、おじいちゃんおばあちゃんばっかだし。でも、やっぱり落ち着きますね。住み慣れた実家だし、ご飯も洗濯もやってくれるので、甘い生活をしてます(笑)。

男子禁制の“豊川女子会”
狭く濃い人間関係が魅力！

都会の頃と比べ、豊川の生活は不便じゃないですか？

瀬下 車がないと何もできないというのはありますね。一番近いコンビニは、自転車でも30分はかかっちゃうので。でも、こっちは高校時代の友達が残っていて、月に2、3回は集まっているので、楽しいです。豊川小学校の同級生とも集まってますよ。男子は誘ってないからいつも女子会だけど、狭くて濃い人間関係です(笑)。

結婚したいと思いませんか？
瀬下 うーん、あんまりしたくないかな。何でだろう、自由じゃなくなるのが嫌なのかな。最近、仲良くしていた友達が結婚

したんだけど、やっぱり飲みに行こうとか誘いづらくなる。気ままに海外旅行とかもできなくなるしね。でも、子どものことに関してはリミットがあることなので、それを考えると35歳までには結婚したいかなって。

旅行が好きなんですか？
瀬下 うん。いろんなところに行きました。オーストラリアとか、タイとか、台湾とか。オーストラリアはエコノミーで12時間もかかったから、すごい疲れた(笑)。台湾は寒いときに行っちゃって、フルーツが食べられなかったのが残念だったけど、食べ物がおいしかった。来年はグアムにスカイダイビングをしに行く予定。それが今一番の楽しみかな。あと、ちっちゃい旅行をするのも好きです。
ちっちゃい旅行？
瀬下 私の会社はソフト制で、土日のどちらか出なきゃいけないですね。その代わり平日の休みがあるので、ちょっと遠くの温泉に行ったり、のんびり出かけてる。平日で空いているから温泉で泳げるのが楽しい(笑)。

それ、やってみたいです！



“農聖”石川理紀之助の子孫 石川紀行さんを訪ねて

聞き手 〓 アリナ(ルーマニア)、楊佳莉(中国)、フロリン(ルーマニア)、鄭翔(中国)、ナオミ(ケニア)、シヴァン(イスラエル)



農家の、そして豊川の今と未来を熱く語ってくださった石川さん。「今なんて言ったの!？」通訳される時間もどかしく、みんな必死にメモをとりました。語りの合間には、石川さんから留学生1人1人への質問も。「ケニアの農業は?」「ルーマニアの人口流出問題って?」「中国の地域はどんな感じ?」など、密度の濃い数時間でした



人々が集まる拠点がないと、豊川がばらばらになっちゃう

石川さんは豊川でどんな子ども時代を過ごしましたか。

石川 ワイルド(笑)。山に行

ったり、田んぼに行ったり。勉強なんて何にもしなかった。冬はズボンがカチカチになるまで雪合戦とかして。私も豊川小に通ったけど、当時は全部で360人ぐらい生徒がいたの。すごかったの、この辺。石油が採れた頃で、人がたくさんいた。

旧豊川小学校の校舎は、石川さんのおじさんが造られたものなんですよね。

石川 そう。私が小学生のときに。だから、ここがなくなったときは悲しかった。でも、何としてもこの地区に一つ拠点がないとみんな集まれないから、跡地に何か建ててくださいと市に頼んで。これないと私らどこで集まる? 集まる所ない。

この建物は、今の豊川の中心のような存在なんです。

石川 そうなの。これがないと中心がなくなると、みんなばらばらとなっちゃって、段々と

人が出ていくようになるの。ばらばらではダメなの。

理紀之助の教えを守り、子どもたちに伝えていく

「石川」というと、やはり

先祖の理紀之助さんが浮かびます。彼についてどう思いますか。石川 私は昔から理紀之助、理紀之助って言われて育ってきた。ちよつとも近づきたいなって思うけど、まだまだダメ。秋田は江戸時代に40万の人口がいたけど、1回の飢饉で10万ぐらい死んじゃうの。豊川も人口半減した過去がある。それだけヒドいんだもの、食べ物がないと。だから理紀之助は「蓄えなさい」ってことを強く言ってた。今でも伝習館には当時の100年前のお米が貯蔵してあるの。

倉庫の中で拝見しました。石川 豊川というのは昔から行き止まり。道路沿いだったらまだ少しは情報も入ってくるけど、ここは昔から山の中だったから、まわりのことは知らない。だから、自分たちが貧しいというのがわからないの。これが当たり前だと思ってる。だけど理紀之助は、「そうではないよ。働きなさい。そして物を蓄えなさい」って。そうすればもう一つ上の幸福がつかめるということを、ずっと唱えていた。理紀之助は死ぬ直前、子どもたちに「天地のお恵み忘れるべからず」と言ったの。太陽があつて水があつて土があつて、これをみんなもつと思いなさいよって。

大切な教えですね。石川 でも、今はお米とかたくさん捨てられてる。だから、もつとみんなに食べ物の大切さを知って欲しいの。小学生の子どもたちと一緒に田んぼの学校をやっているの、自然に触れて農業を学んで、水や食べ物の大切さを伝えるためのの。今まで日本は工業化一辺倒で、農業は横に寄せられてきた。でも、これからは農業を大切にしないとダメ。いつか必ず作物が獲れない時期が来るから。来年来るか、1000年後に来るかかわから

これから農業を大切にしないとダメ。必ず作物が獲れない時期が来るから

石川さん

秋田県民も知らない豊川の歴史について、 “秋田オタク”が本気出して調べてきた！



文＝金雄大

地名に残る石油の香り
最盛期は一日40億円!?

本ページの文章を担当します、
わたくし金です。秋田掘り起こ

し集団「学生団体ATMU!（ア
トム）」に所属しており、その

八郎潟（元日本第2位の湖。千拓
によって大部分が大潟村となった）
に注いでいます。その川沿いに
集落と幹線道路があります。陸
の半島状態ですね。

井戸や櫓をわずかに見ることが
できますが、それも2本3本あ
ったという話ではないようです。
油井の数は最盛期で……なんと
718本!? そこから「1本に
つきドラム缶700本分の石
油が高さ30mまで一日中噴き上
げた」と潟上市の教科書に書い
てありました。仮に現在の価値
に換算すると、最盛期には一日
に約40億円分の石油が出ていた
計算になります。いまは何気な
く佇んでいる豊川地区ですが、
かつてはあたり一面の田んぼ
……の上にそびえ立つ巨大な櫓
たち。もしかしたら、遠く離れ
たところでこの本を読んでいる
みなさんも豊川の石油を使って
いたかもしれないということだ
す。町に歴史ありですね。

おける採掘のようです。今では
生活に欠かせなくなっている資
源は、もとはアキタブランドだ
ったんですね……知らなかつた
です（by秋田県人）。

合併と分離の歴史が示す 豊川の強い自治精神

をオススメします。

います。秋田市に生まれ育ちま
したが、豊川地区のことは今回
携わるまで恥ずかしながらまっ
たく知りませんでした。ですの
で、ここを読んでいろいろの
なさんもわたしも同じ豊川ビギ
ナーです。一緒に気持ちになっ
て、トヨカワについてちょっと
スタディしてみましょう。ネッ
トで調べても情報が全然出てこ
なかつたので図書館へ行ってき
ました。

次に個々の地区名を見ていき
ます。みなさんもグーグルマッ
プで地道に地区名の看板を探し
てみてください（笑）。

豊川で石油採掘が始まったの
は1910年頃。当時の豊川油
田周辺には、関連設備である発
電所や運送会社や製油所、トロ
ッコや貯水タンクなども立ち並
び、それまでの田園風景とは一
線を画する存在だったと思われ
ます。今の豊川にはトロッコを
運ぶ音も、大規模な石油会社の
活気も、仕事後の「もつきり」
での宴も、昼のような明るさが
あった山の夜景もありません。

次に行政面の歴史をひもと
ていきます。全国どこでも言え
ることですが、合併によって旧
市町村名や地名が分かりづら
くなっていることは秋田でも例
外ではありません。平成の大合
併以降、豊川は潟上市の一部に
なっています。これがかつては
「昭和町」の二大地域である、
大久保地区と豊川地区で……こ
こから調べると複雑なんです。
石油にわいた大正時代、ここ
は「豊川村」というひとつの村
でした。それが1941年から
始まった「昭和の大合併」の対
象範囲となりました。住民は無
税での地域維持が可能なほどに
村の財源は豊富だとして大反対
したのですが、合併を前提とし
た幹線道路建設の契約を見逃す

区域を調べるにはまず地名か
ら。その名の通り、豊川地区は
その真ん中に川が流れていて、

名を越す児童が通ったといいま
す。豊川油田稼働時には石油会
社関係の児童も通い、豊川に昔
から住んでいる家庭の子どもは
着物に藁草履や下駄だったのに
対し、石油会社関係で豊川に移
り住んだ児童は洋服にズックだ
と手元の資料には綴られています。
石油噴出以降、出稼ぎ先
として当時日本で最も石油産業
の盛んだった新潟県を中心に、
豊川には県内外から元の人口を
上回るほどの労働者が流入し、
みな比較的裕福な生活を送って
いたものと考えられます（学校長
と石油会社社員の給料がほぼ同
くらいだった模様）。

田んぼと油田
田んぼと油田
田んぼと油田

なのかもしれません。これを読
んでいる県外のみなさんは「リ
キノスケって誰だよ」とお考え
かもしれませんが、この人物、
秋田県では誰もが一度は勉強し
たことのある偉人なのです。ネ
ットで検索しても結構出てくる
ので、もしよかつたら探してみ
てください。

「第二の二宮金次郎」との呼び
声高い理紀之助さん。その功績
についてはインタビュー中にも
ありますが、現在も開催されて
いる秋田県が発祥のイベント
「種しゅむ苗交換会（農業に関する器具
商品などの展示販売を行うもの。
県内各地区持ち回りで開催され、
全県から農業関係者が集まる）」
や、適地適作の指導および農村
におけるリーダー育成を行うた
めのありとあらゆる調査結果を
まとめた「適産調てきさんてう」など、産業
革命レベルの手腕をふるった人
物なのです。さらに興味のある
人は、天然アスファルト採掘の
商業化に尽力した黒沢利八につ
いても調べてみてください。こ
こには書ききれませんが、ここ
まで書いてきたところのもう少
し昔の豊川についても知ること

わけにはいかず、1942年に
合併。ここに昭和町（元大久保
町・豊川村・飯田川町）が誕生し
ました。しかし戦乱の中で、合
併前に契約した道路建設や自治
は十分には行われず、豊川は8
年後の1950年に昭和町から
分離してふたたび「豊川村」と
しての歴史を歩みました。（ほと
なく飯田川町も昭和町から分離
しています）。その後周辺市町村の
働きかけや時代の変化もあって、
1956年昭和町に再合併、そ
して2005年には昭和町・飯
田川町・天王町が合併して現在
の潟上市落成となったようです。

そんな活気もあつた小学校で
したが、2012年3月で135
年の歴史に幕を閉じました。地
域のシンボルであった小学校の
廃校、そして校舎の取り壊しに
危機感を覚えた住民が、協議会
を通して、地域の人達が集まる
ことのできる施設の建設を市に
訴え、2014年10月に潟上市
多目的施設（豊川コミュニティセ
ンター）が小学校跡地に建設さ
れました。今回のインタビュー
および発表の際にも利用させて

地域への愛情と情熱は
石川理紀之助のDNA!
油田開発によって多くの地域
外人口が流入した旧豊川村。そ
の中でも地域はひとつであり統
け、伝統と情熱を受け継いでき
ました。今回の企画で出会った
みなさんも、確かに過疎という
問題はあるかもしれませんが、
地域への愛情を持ち続けている
ことがインタビューやふと口に
した言葉の一つづつからわかり
ました。

最後に、このフレーズを。
「豊川よいとこ 櫓の林 山中
掘れば 石油が出るよ」
これは油田最盛期に唄われた
うたの一節です。冊子からメロ
ディを奏でることはできません
が、これからの豊川がいま一度
盛り上がることを願い、地域住
民が奏でる新しいメロディに耳
を傾けてみてください。

周辺市町村との交渉においても、
豊川地区は強い自治意識がある
ことがうかがえます。留学生た
ちのインタビュー会場でもある
「豊川地区コミュニティセンター
（旧豊川小学校跡地に建設）」建設
の働きかけや油田の歴史的価値
保存活動、石川理紀之助伝習な
ど活発な運動が数多く起こって
います。ここで出てきました「旧
豊川小学校」。明治9年からあつ
た小学校で、名称や建物が変わ
りながらも多いときには500

田んぼと油田
田んぼと油田
田んぼと油田

豊川の方々の地域に対する情
熱は、地域の偉人である石川理
紀之助が残した教えによるもの

一人一人に眠っている地下資
源を信じて、これからもトヨカ
ワは生き続けます。



取材中の筆者。伝習館で理紀之助の蔵書に大興奮

*「くそう」と読む人も多いが正式には不明



Interview 1

豊川での生活を諦めない、人々の強いspirit!

豊川の小学校は生徒数が少なく、「まるで家族のようだった」と富士盛さんは語っていました。しかし、人口が減り、今では唯一の小学校もなくなってしまいました。私たちは「豊川の人たちはより良い教育を求めて都市に向かうのか」とたずねました。富士盛さんは「豊川の人たちがここを離れるのは、教育のためではなく、仕事がないためだ」と答えてくれました。今、豊川に住んでいる人は、ほとんどが高齢者です。しかし、今でもここに住んでいる家族はたくさんいるし、その子どもたちはここから別の地区の学校に通っています。それが可能なのは、豊川の人たちが強い精神 (spirit) を持ち続け、ここでの生活を諦めないからだと感じました。[ヤエル、オユン、デリア、李エンセイ、王徽、蘭夢婷]



豊川コミュニティーセンターで行われた留学生による「豊川レポート」の発表会。地元のみなさんからも温かい感想の数々をいただきました!

とても熱心に調べているので、感心しました。他方フィールドトリップの時間は短いと感じました。

Interview 3

豊川はみんなが“大きな知り合い”だった!

あまり人に知られていない小さな豊川地区にも、ほかの地区と同じようにいいところもあれば、そこに住んでいる人にはほかの地区と同じ悩みもある。2人の女子高校生の生活の様子を詳しく聞くことで、そんな豊川の日常やそこに住む人たちの考えをみんなに伝えたいと思いました。佐々木さん、大澤さんの話から見つけた豊川のいいところは、人口が少ないけれど、その分みんな“大きな知り合い”のような感じでつながりが強いこと。そして、いつも気持ちを新鮮にしてくれる美しい自然があること。豊川のおじいさん、おばあさんと話して、そして豊川の町の中を散歩すれば、心が穏やかになるそうです。なんだか豊川の暮らしがうらやましくなりました。[ブヤンヒシゲ、金アヨン、ビリゲ、謝定恵、周芸明、辛美琦]

日本に来た留学生の思い出が潟上市、しかも豊川となることを大変うれしく思う。数ある地域の中で、豊川を選んでくれてありがとうございます。



Interview 2

先入観が崩れ、新しい豊川と出会えた

30年後、96%の市区町村がなくなると言われている秋田県。その中でも過疎化が深刻な豊川。油田の時代が終わり、小学校もなくなった今、引っ越しを決意する人も少なくありません。しかし小玉さんはいったん県外に出た後、豊川に戻ってここでの暮らしを選びました。彼の目から見た豊川はどんな場所なのか、たくさん話を聞かせていただきました。変わらないものと変わっていくもの。その両方を宿した豊川が10年後、30年後にどうなっているか誰にもわかりません。ですが、豊川で育った人にとってこの場所が唯一無二の故郷であることだけは確かな事実です。インタビュー前、豊川での暮らしは不便だという先入観をもっていた私たちにとって、小玉さんの話は新しい豊川との出会いのきっかけになりました。[鄭彼蓉、高雪婷、劉曉曉、李丹陽、ロベルト]

もし、今後も続くようなら普通の民家もおもしろいと思う。

石川理紀之助の精神と行動をよく調べていました。

短い期間では難しいと思う反面、短い中でもいろいろ感じてくれたことに感謝したい。

若い人よりは、駄菓子屋のおばあさんや、色々な町内のおじいさんおばあさんとお話をすればたくさん豊川について話してくれると思います。わたしが一番好きなのは、豊川に住むやさしいおじいさんおばあさんたちです。[大澤美帆]

率直な意見は豊川に住んでいる方々にとって普段聞かないことなので、よかったと思う。



Interview 4

中学生の言葉に宿る“豊川のリアル”

子どもがどんどん減っている豊川地区。その中で、今も豊川に住んでいる子どもたちがどのように生活しているかという情報は、豊川について知る上で重要な一部分だと思い、13歳の少年である沢畑さんと川上さんにインタビューを行いました。勉強よりも野球の練習に励み、休みの日には、川や池で釣りをしたり、自転車で走り回ったり、または家族とのんびり過ごしたり。2人とも、今後豊川の人口が増えてほしいと言っていました。大人になったら2人とも豊川を出たいそうです……。その話が一番印象的で、豊川の問題を表していると感じました。[馮明明、翟曉真、金秋爽、アセル、アキル]

最終的に冊子を作るという大きなプロジェクトでしたが、豊川について様々な人々に知ってもらいたい機会になると思うので、とてもよい活動であったと感じました。

土壌改良の工事が行われていますが、人が減って担い手がいません。そうした中、農地整備を進める意義について地元農家に聞いても良いのではないのでしょうか。

コミュニケーションを取るのが難しい中、よく努力している。

Interview 5

育った土地に感じる、かけがえのない魅力

若い女性である瀬下さんが、進学した神奈川県ではなく、職場がある秋田市でもなく、ここ豊川に戻ったのはなぜなのか。豊川に他の地域と異なる特別な魅力があるからこそ、瀬下さんはそこに戻りたかったはず。その謎を解きたくて、私たちはインタビューを行いました。今の日本社会では、多くの若者が故郷を出て大都市へ向かいます。その中でも、依然として一定の若者が田舎に帰っていきます。その原因となる何かは田舎にあるはず。インタビューの中で繰り返し出てきた言葉は、東京にはない落ち着きを与えてくれる豊川の「自然」、そして「思い出」。子ども時代の生活環境は人の一生に強い影響を与えるようです。瀬下さんの目を通し、私たちも豊川の特別な魅力を見つめることができました。[陳曼曼、辛芸秀、吳美慧、李丹、崔ファヨン]

豊川は地下資源の宝庫でもあり、資源学部とドッキングしてみてもいいと思います。調べてください。



普段われわれが見ている視点と違った角度で留学生が感じたことを発表する取組みは非常におもしろいと思いました。また、留学生の視点にとっても感動しました。

各年代をバランスよくインタビューしていた。

豊川がテーマだとは思いますが、旧昭和町の大久保周辺あたりまでエリアを広げれば、もう少し話題も広がったと思います。昭和地域での豊川地区の位置付けという視点もあって良かったかと考えます。

テーマが硬軟あり、面白いと思いました。



Interview 6

「ばらばらではダメだ」が照らす豊川の未来

私たちは、石川さんから、理紀之助の活躍を中心とする豊川の過去、過疎化する現在、そして将来の農業に対する希望を聞こうと考えました。石川さんの話の中で特に印象的だったことは、豊川住民が、生活をよりよくしたいという希望のもと、伝統的な価値観、例えば理紀之助の教えなどを放棄するのではなく、現代に融合させようと努力している点です。多くの地域のコミュニティでは伝統的な価値観は放棄されているのではないかと思います。もう一つ印象的なことは、繰り返し語られた「ばらばらではダメだ」「一致団結してまとまらなければ」という言葉。それが、過疎化する豊川が将来も生き残る方法だと石川さんは考えているのです。[フロリン、楊佳莉、シヴァン、ナオミ、鄭翔、アリナ]

恋愛など読み手を引きつける記事が多く、よかった。

留学生と3回という短い回数ではありましたが交流できてうれしかった。貴重な経験ができた。[佐々木美咲]

英語は今ひとつでした。わかりませんので。





留学生と出身地域

ヤエル(イスラエル)、オユン(モンゴル)、
 デリア(ルーマニア)、李エンセイ(中国)、
 王徽(中国)、蘭夢婷(中国)、
 エリカ/鄭筱蓉(台湾)、高雪婷(中国)、
 劉曉曉(中国)、李丹陽(中国)、
 ロベルト(ポーランド)、ブヤンヒシゲ(モンゴル)、
 リタ/謝定恵(台湾)、周芸明(中国)、
 ビリゲ(モンゴル)、金アヨン(韓国)、
 辛姜琦(中国)、翟曉真(中国)、
 アセル(モンゴル)、アキル(マレーシア)、
 金秋爽(中国)、馮明明(中国)、陳曼曼(中国)、
 辛芸秀(中国)、李丹(中国)、
 アリナ(ルーマニア)、楊佳莉(中国)、
 フロリン(ルーマニア)、鄭翔(中国)、
 ナオミ(ケニア)、シヴァン(イスラエル)、
 崔ファヨン(韓国)、呉美慧(中国)

*順不同

編集後記

秋田の冬は、重い雪とそれさえ巻き上げる豪風が吹き荒れる過酷な季節です。そんな曇天の下、寒い寒いと叫びながらもにぎやかに教室に飛び込んでくる留学生たちはまぶしいばかり。その活力と熱量が秋田の進む道をぼっと照らし出す光になればという思いで、彼らと一緒に豊川に入りました。異なる文化を持つ者同士の衝突が世界の各地で起きています。地域と留学生の幸せな出会いを目指してこれからも活動を続けていきたいです。

とはいえ、私も2014年4月に秋田に来たばかりの秋田初心者……。みなさん、次号も(あるいは)ご協力は是非よろしくお願いします！

〔平田〕

留学生がインタビューした6組8名のみなさんは、全員が豊川小の出身者です。よく考えると、これってすごいことですよ。下は中学生から上は60代まで、同じ町・同じ学校で育った老若男女が、それぞれの立場でそれぞれの人生を語る。これはそのまま豊川の歴史であり、この土地に流れてきた膨大な時間の一端に触れられる、貴重な史料になっていると思います。私はちよつと泣きました。

〔清田〕

冊子を読んだ人には、豊川地区をまったく知らなかったという方も多いのではないだろうか。それでも手にとってもらえたことに感謝したい。コラムを読んだからもう一度読み返すのもまた一興ということで……。〔金〕

はじめての秋田は、本誌の打ち合わせでした。充分な資料を抱えて張り切った臨んだものの、連れていかれた場所が銘店「ちやわん屋」だったのがいけない。舞茸料理からきりたんぼ、しょつつる鍋と名物地場料理のフルコースを堪能、当然のごとく日本酒も進み、仕事の話をした記憶がまったくない。ちなみにそのお店ですが、秋田駅から徒歩圏内、ずらん通りにございます。えーと、秋田最高！

〔ウ〕

田んぼと油田

通算第1号

発行日	2015年2月18日	協力	池田 啓(秋田大学国際資源学部・国際交流サークルCCC代表) 奥山健人(秋田大学理工学部) 佐藤明美(秋田大学国際資源学部) 千葉菜々美(秋田大学教育文化学部) 長谷川彩乃(秋田大学医学部) 馬場真沙子(秋田大学教育文化学部) 深津裕貴(秋田大学工学資源学部) 本戸初音(秋田大学教育文化学部) 三河優季(秋田大学教育文化学部) 南 彩瑛(秋田大学教育文化学部) 安田みのり(秋田大学教育文化学部) 国際交流サークル CCC (Cross Cultural Circle) 秋田掘り起こし集団 学生団体ATMU! 潟上市
発行	秋田大学 国際交流センター 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 電話 018-889-2258 ファックス 018-889-3012 http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/	Special Thanks	「草木谷を守る会」 「豊川油田の歴史を伝える会」 「船橋自治会婦人部」
企画	平田末季(秋田大学国際交流センター) 秋田大学基礎教養科目「日本社会入門II」を受講した留学生33名	印刷・製本	山田写真製版所
企画協力	金 雄大(学生団体ATMU!)		
編集	清田隆之		
デザイン	ウチカワデザイン		
写真	川上勇介(秋田大学国際資源学部・学生団体ATMU!) 小野寺敦大(秋田大学工学資源学部・学生団体ATMU!) 平田末季、平田早季		
イラスト	平田早季		

*本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。
 *本誌は文部科学省「地(知)の拠点整備事業」に助成を受け、
 国立大学法人秋田大学国際交流センターが制作・発行しています。
 ©Akita University International Exchange Center / 2015



Feb. 2015

